

『日中水フォーラム2005札幌』が10月28日から2日間、札幌市で開かれる。主催は日中新世紀協会という、若者が主体のNPO法人だ。

代表の市村慶太氏は1976年生まれの29歳。日中国交正常化20周年を記念して1992年に始まったツールドチャイナという国際ロードレースに、高校生の際に参加したのがきっかけだった。レースの運営をめぐる中国の青年たちとの共同作業の中から、中国、ひいてはアジアの環境問題、水問題に思いが及ぶようになったという。

共催者である中華全国青年連合会は、中国共産主義青年団を核とする青年団体の連合組織で、傘下団体の会員数は3億8千万人に及ぶ。

中国は目覚ましい経済発展を遂げる一方、都市化や工業化の進展により水不足と水質汚濁の問題が顕在化している。アジア諸国や日本の文化に

多大な影響を与えた黄河の水が枯れ、世界中で水危機が叫ばれる中、日中の若者たちが、生命にとって最も根源的な水を取り上げるようになったのは当然だろう。

その若者たちが中心となって企画されているのが『日中水フォーラム』だ。次世代を担う若者たちが、問題

若者と協働し成果を

を共有し、議論を深め理解しあおうという流れを大切にしたい。これらの取り組みの成果が、東アジア、ひいては地球規模での「水と環境」に貢献することにもなるだろう。

日中水フォーラム

札幌フォーラムの企画書を見て、若者たちの行動力を実感した。運営組織の名誉顧問に丹保憲仁放送大学長と上田文雄札幌市長。顧問には眞柄泰基北海道大学

教授や尾田栄章日本水フォーラム事務局長、高見邦雄NPO法人・緑の地球ネットワーク事務局長らが就任することになっている。錚々たる顔ぶれた。これだけの人々が試みに賛同し、協力しようというのだ。若者たちの熱意が多くの人々を動かしたといえるだろう。

フォーラムの特徴は、両国間の水問題の解決とあわせ、目的の一つに

日本の産業界の発展と技術交流をあげていることだ。開催期間中、日本企業による中国進出への足がかりの場として「日中水パートナーシップサロン」を設けるという。

日本の水・環境関連企業が中国に参入するには多くの壁があり、市場へのアクセスが難しいという現状がある。欧米諸国と比べ、同等以上の技術レベルを持ちながらも、市場への進出を果たせないという事例も多い。水の分野に限ったことではない

が、日本の企業からは、情報が足りない、接触した部署やキーマンが違っていたという話もよく聞く。サロンでは、中国側参加者と関連企業との「顔の見える交流」の場を設け、各種相談にも応じる予定という。単なる交流だけでなく、日本企業による市場参入を視野に入れていることにも注目したい。

フォーラムには、中国側から大臣クラスの政府要人のほか地方政府関係者、研究者、学生など300名が参加する。次世代を担うユースたちが水問題について話し合う『日中ユース水フォーラム』では、「若者の水環境への意識喚起」「日中間の友好進化」を目的に両国の大学生、高校生らが集う。交流の成果は、やがて国家レベルの政治課題の解決にも繋がっていくことと確信する。

中国からの参加者は日本水道工業団体連合会主催の水道展で、日本の誇る最新技術の展示ブースを視察する。ビジネスチャンスの芽が生まれるかもしれない。若者たちとともにフォーラムの成功に協力したい。